

第3回 遊びから学ぼう ワークショップ 開催報告書



令和元年 11 月

目次

1. 概要	4
(1) 開催日時・会場	4
(2) プログラム	4
2. ガイダンス	5
(1) 教育総合センターの整備概要	5
(2) 一般開放部分をワークショップで検討	6
(3) 第2回ワークショップ（広場の活用） での主な意見と検討状況	7
3. ワークショップの記録	10
(1) グループワークの進め方	10
(2) グループ毎の記録	12
(3) 全グループのまとめ（主な意見）	20

1. 概要

(1) 開催日時・会場

日 時：令和元年 11 月 6 日（水） 14：00～16：30

会 場：若林小学校 多目的ホール

(2) プログラム

14：00（15分） 開会

ガイダンス 新教育センター整備担当課長 北村 正文

14：15（95分） ワークショップ（4グループ）

グループワーク

(1) 前回はふり返りって、フリーディスカッション

(2) 何度も来たくなる交流スペースを考えよう！

1：「だれが」「どんな遊び」「どんな過ごし方」ができるといいですか？

2：その「遊び」「過ごし方」を実現するために「どんな環境」が必要ですか？

15：50（10分） ～休憩～

16：00（25分） 発 表

16：25（05分） 事務連絡

16：30 終 了

2. ガイダンス

(ワークショップ開催趣旨)

(1) 教育総合センターの整備概要

乳幼児期からの教育・保育の推進をはじめ、教育研究・研修や総合的な教育相談など世田谷区の質の高い教育を推進する拠点として、若林小学校の移転後の跡地に「教育総合センター」を新たに開設します（令和3年度開設予定）。

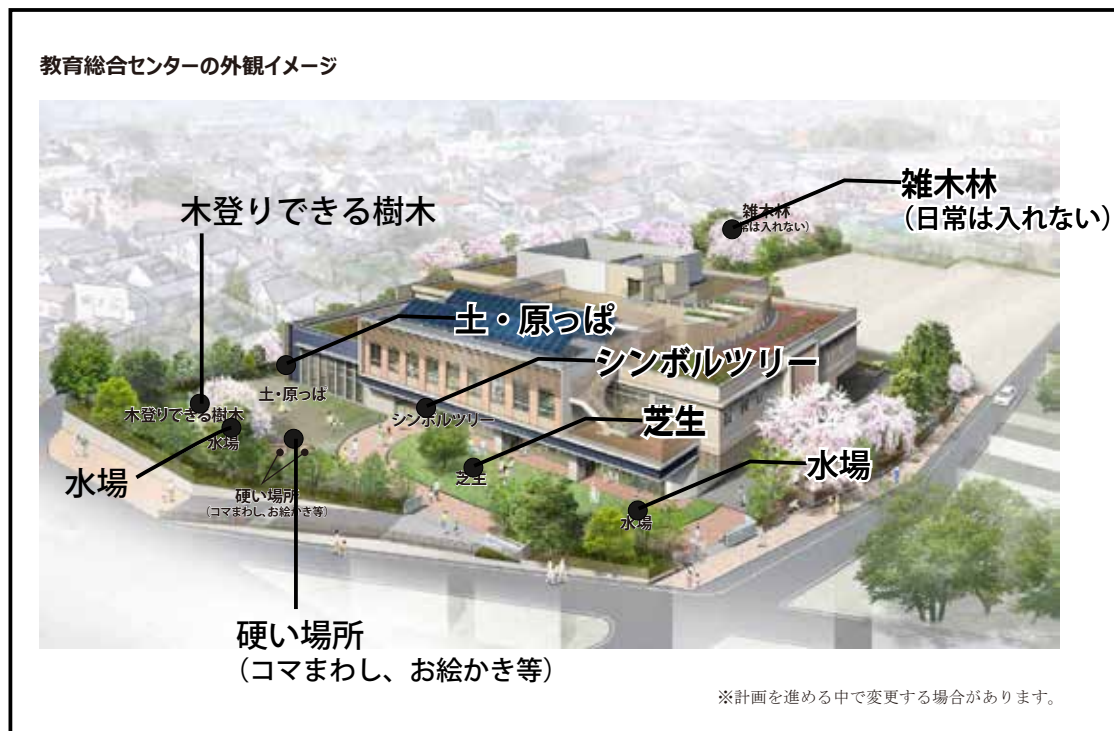
【交流ゾーン】

世田谷の教育を発信する魅力的な空間

- ・区民が気軽に訪れ、世田谷区の教育に関する情報・資料等にふれる場
- ・未就学・未就園の親子が、世田谷の教育を知る場
- ・ミニイベントなどをおし、賑わいを創出し、区民が世田谷の教育に参加・参画する場

【広場】

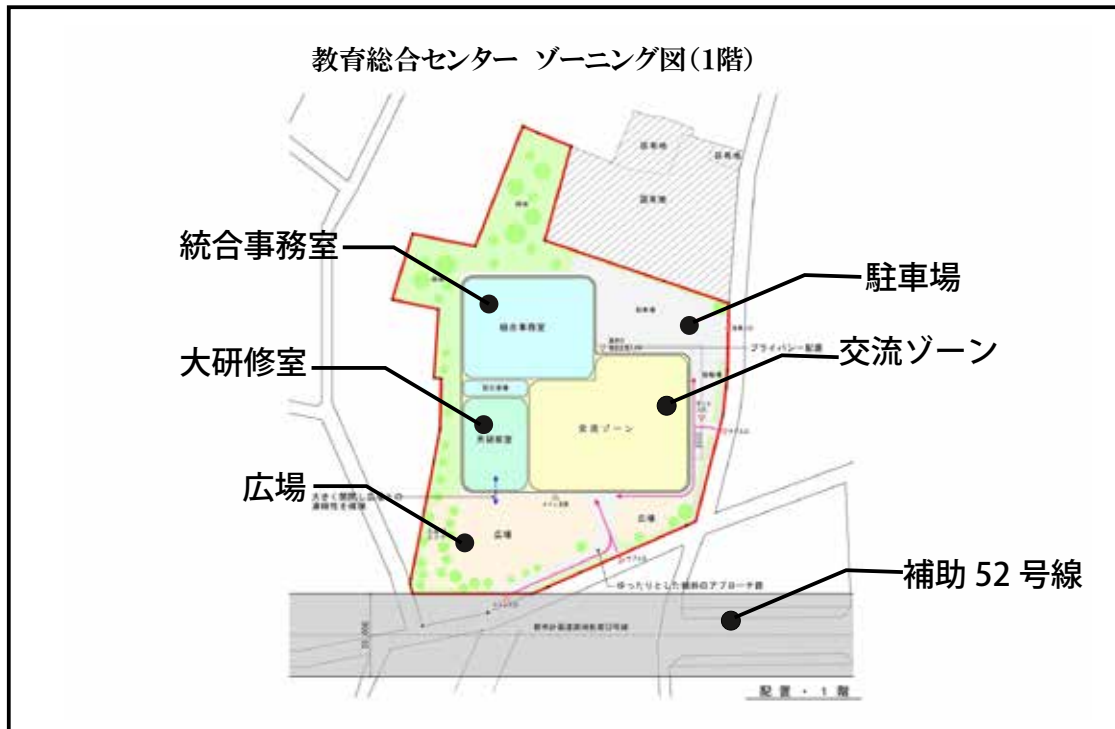
- ・乳幼児期を始め、子どもに必要な外遊びの場
- ・健やかな心と体づくり、遊びをとおした学び、体験・体感の場を提供



(2) 一般開放部分をワークショップで検討

教育総合センターの1階部分のゾーニングは、以下の図のとおりです。

「世田谷区教育総合センター構想（平成 29 年 6 月）より」



開設までの期間では、乳幼児教育の推進に向けて、教育総合センターの交流ゾーン（室内）や広場（室外）の連携した活用をめざし、実際に利用する教員・保育者、保護者や地域の方等に参加いただくワークショップを継続的に開催して、皆さんと一緒に考えていきます。

今回の開催では、屋内交流ゾーンをテーマに実施しました。

- 第1回目 平成30年9月25日 子どもの「遊び」について
- 第2回目 令和元年7月17日 屋外の広場について
- 第3回目 令和元年11月6日 屋内の交流ゾーンについて

(3) 第2回ワークショップ（広場の活用）での主な意見と検討状況

●こんな場所にしたい

- ・ こどもの「したい」を大切にする
- ・ 多世代や親子が集う場所
- ・ プレーパークとは住み分けた「大人が関わらなくても安全な場所」
- ・ プレーリーダーがいる
- ・ 大人も楽しめる場所
- ・ 近隣幼稚園・保育園からのおでかけ場所
- ・ 遊具の設置よりも、自然環境の中で子どもたちが自由に遊ぶ場

●こんなものがほしい

- ・ 泥あそび・水遊びができる空間
- ・ 高齢者が利用できるベンチ
- ・ 木登りできる樹木、実のなる樹木、ツリーハウス
- ・ 小さな生き物が住める自然エリア、ビオトープ
- ・ トランポリン・アスレチック
- ・ デコボコのある空間（築山など）
- ・ 裸足やハイハイできる草地の空間
- ・ 外でピクニック・飲食ができる空間
- ・ 火遊びできる空間

●設置の検討状況

- ・ 泥あそび・水遊びができる空間
- ・ 高齢者が利用できるベンチ
- ・ 木登りできる樹木、実のなる樹木、将来ツリーハウスも可能な樹種の選定
- ・ 小さな生き物が住める自然エリア
- ・ 裸足やハイハイできる芝生空間
- ・ 外でピクニック・飲食ができる空間

※デコボコのある空間（築山など）、ビオトープ、ツリーハウス等については、当初から設置は行わず、運用の中で検討を進める。

※火をつかった遊びの空間は、常時の使用は難しいため、イベント等での使用等を検討していく。

【各室の利用目的イメージ】

①交流ゾーン（一部区画に土足禁止のキッズスペースを設置予定）

主な対象者：・乳幼児とその保護者

- ・小中学生
- ・近隣の区民

※キッズスペースの対象はハイハイ～つかまり立ちくらいの年齢の乳幼児

目的：・区民同士の交流

- ・区民に向けて、さまざまな教育に関する情報（教科書展示含む）の発信
- ・乳幼児の非認知能力を高める取組みの試行

備考：・交流ゾーンと外の広場はGP（ガラスパーテーション）で区切られており、開放することで連動した利用が可能

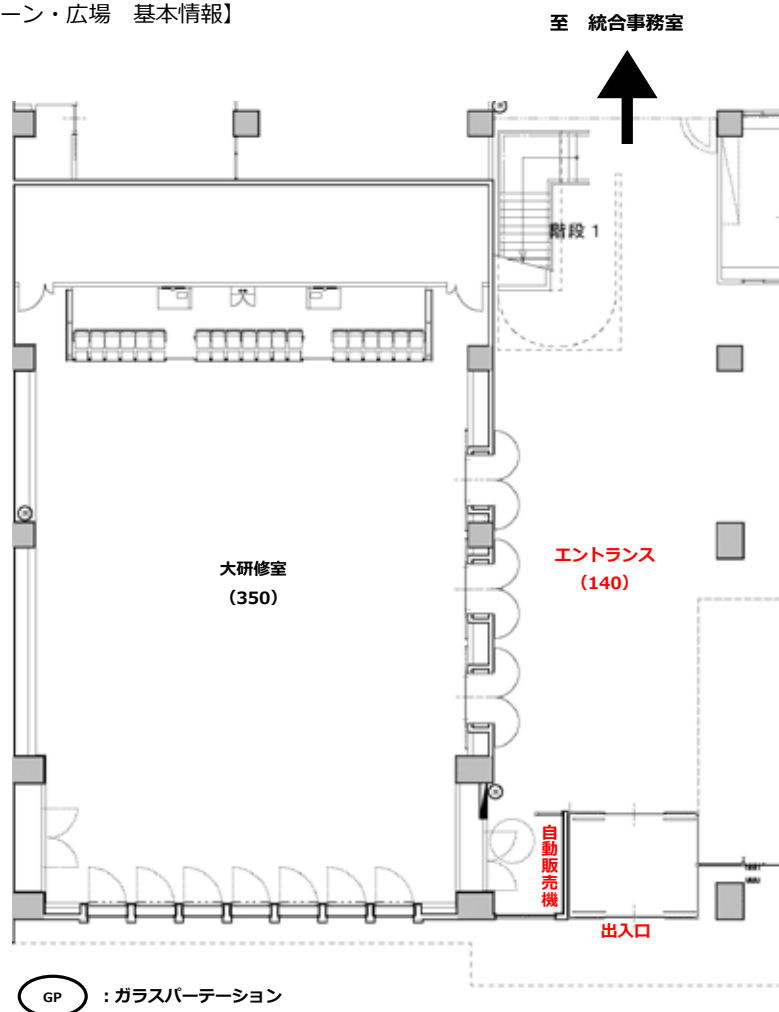
②スペース1

主な対象者：・幼児（2～6歳・就学前）を想定

目的：・工作等ができる材料を一定そろえ、アトリエのような作りにし、乳幼児の感受性や創造性を高める取組みの試行を想定。

備考：・北側の倉庫も活用可能。

【交流ゾーン・広場 基本情報】



③スペース2

主な対象者：・区民（保護者、幼児、小中学生等含む）

目的：・使用方法については広く意見をいただく。

備考：・キッチンの利用も可能。

・日常的な用途としては、キッチン以外の用途も含めて意見を拾いたい。

④ STEAM Studio（科学実験室）

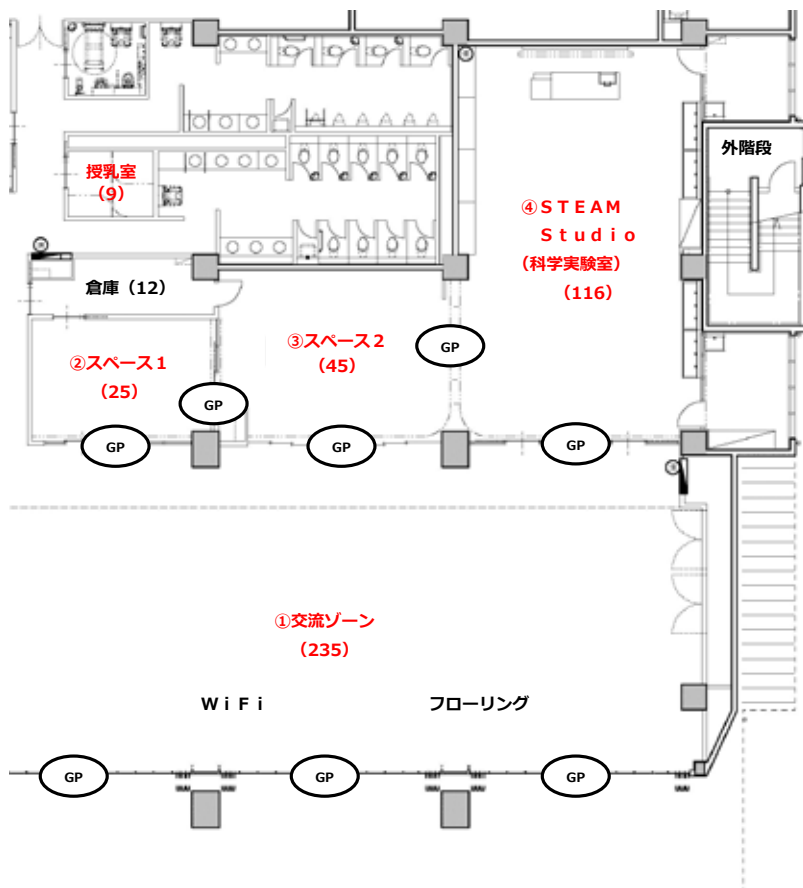
主な対象者：・小・中学生

目的：・STEAM（Science、Technology、Electronics、Art、Mathematics）教育の推進。

・小中学校ではできない科学実験、プログラミング、芸術的な活動等を通して、子どもの多様な興味・関心を引き出す取組みを想定。

備考：・現教育センターにある科学実験室の用途を広げるイメージ。

・常時開放はせず、イベント時のみ開ける予定。



3. ワークショップの記録

(1) グループワークの進め方

4つのグループに分かれて、意見交換を行いました。

1) 自己紹介

- ・グループ内で、簡単な自己紹介。

2) 第1回(平成30年9月)、第2回(令和元年7月)を振り返って、フリーディスカッション

- ・第1回、第2回の振り返り。
- ・グループ内で、前回の振り返った感想を出し合い、教育総合センターで大切にしたいことを確認する。前回参加していない人とも共有する。

3) 何度も来たくなる交流スペースを考えよう!

1:「だれが」「どんな遊び」「どんな過ごし方」ができるといいですか?

2:その「遊び」「過ごし方」を実現するために「どんな環境」が必要ですか?

- ・個人ワーク：フセンに意見を書く。
- ・グループワーク：フセンを模造紙の上に出し合い、似たような意見をまとめて整理していく。

：赤色のシールを一人3コ持ち、個々人が「大切にしたいこと」にシールを貼る。

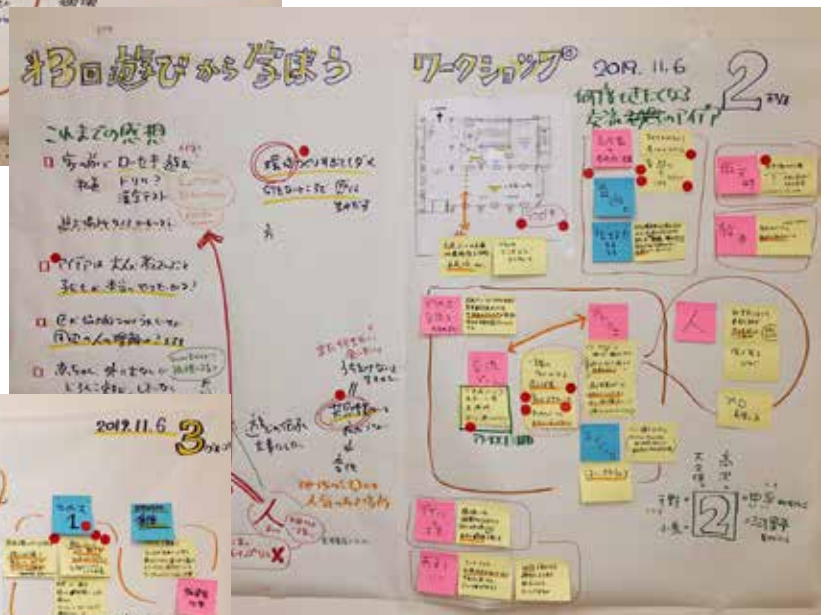
[報告書内では、シールが何枚貼られたかを(●×5)と表記する。]

4) 発表の準備

- ・発表者を決める。
- ・●シールが貼られた数を眺めながら、発表したい内容をグループ内で話し合う。



各グループの意見がまとめられた模造紙



(2) グループ毎の記録

グループ1

何度も来たくなる交流スペースを考えよう！

【これまでの振り返り】

■地域の中の施設として実現性を

- ・不便な場所なのに人が来るのか。車や自転車の対応は？
- ・住宅街の中で、できないことがあるのでは（泥遊び、火を使う、音など）。前提条件は明確？
- ・「広がりのある遊び」というコンセプトは時代に合っている。
- ・昔はどこでも遊べた。今はこういうスペースが必要だと思った。

■年齢層をどう考えるか

- ・「異年齢」とは？ 乳幼児なのか、小中高校生まで含むのか。もう少し詳しく知りたい。

■「子ども」のためだけの施設ではなく、未来のみんなのための施設

- ・「子ども」という枠で考えることがそもそも間違いで、（人格を持った）小さな進行形の人たち、未来の大人たちである。
- ・「子どものため」という視点ではなく、未来のために考える必要がある。そう考えると今の案はあまりにも「子どものため」という視点が強く、悲しい。

■「遊び」は用意されたものではない

- ・「遊び」は用意されたものではなく、そこで自然に生まれる（営まれる）すべてのこと。
- ・施設をつくることに一所懸命に見える。根本から考えて欲しい。

【交流スペース：コンセプト】

■大人も子どもも自分の責任で遊べるようになること（●×6）

- ・施設もルールも素材も用意はある。それをどう使うかは、それぞれの人が考える。
- ・大人も子どもも自分の責任で遊べるようになること。
↑このコンセプトをこの場所でどう実現するか。

■人がいること（●×4）

- ・利用者や子どもたちにどう活用していきたいか、常にヒアリングできる人が内外にいる。
- ・「遊ぶ」ことの意味を伝えること。住民や大人に伝え続けること。
- ・ここで行われたことを記録し、「財産」に変えていくしくみ。そのための人が必要。

■年齢で分けない、〇〇用と決めつけない

- ・年齢で分けない。
- ・子ども、親、大人とかにしない。一人の人間として自分と向き合える。
- ・「ハイハイする場所はここ」と決めない。別に外でハイハイしたって良い。
- ・「ここは〇〇用」と決めつけない。場所と道具は用意するが、それをどう使うかは子ども（使う人）が決める。たとえば、「科学実験室」などと決めない。

【交流スペース：空間づくり】

■外と内をつなげる

- ・広場から交流ゾーン、スペース①②について、外（芝生）から内（デッキ）（室内）に向けて、連続性があり、動から静へつながりのある作り方。（●×2）
- ・スペース間の親和、広場からの親和。
- ・シャワー（湯）、木のデッキ、絵本、おもちゃ、キッチン、素材、描画など。

- ・土足でそのまま入れるのか？

■フレキシブルな家具

- ・フレキシブルなオリジナルインテリア。(●×2)
- ・パーテーション、テーブル、イス、階段、ソファなど。
- ・「家具」というよりも、大きな積み木のようなインテリア。
- ・用意はするけど使い方は自由であるもの。
- ・スペース2にあるキッチンで調理し交流ゾーンで食事する、といった使い方。そのためのテーブル、イスがある。
- ・机、イスをしまうスペースはあるのか？
- ・時間帯を決めて、子どものクッキーづくりや白玉など、自分の家では人を呼べないけれど、ここならできる、というような使い方。

【交流スペース：使い方】

■素材を用意

- ・空き箱やトイレットペーパーの芯などを使って、子どもたちが自由制作できるスペース。(●×1)
- ・大人だって使って良い。自分で考えて使う。
- ・モノとの対話、マテリアル(素材)、世田谷産のさまざまな素材。(●×1)
- ・ほかにも畳、ワラ、ネジ、暮らしのものがある。それをどう使うかは自由。

■プログラムやメニューの提案(●×1)

- ・親子ヨガ教室(親子でふれあう場)
- ・のびのびとふれあえる。子どもとのふれあい方がわからない親もいる。
- ・そのためにもインストラクターがいると良い。
- ・身体を動かす教室(ダンスなど)+親子体操
- ・例えば、火曜だけはイベントの日、などと決めてもよい。

■自由に弾けるピアノ(エントランスに)

- ・演奏会ができるように、防音と常設のピアノや楽器(普段は誰でも弾ける)。

■予約制にしない、ルールだけ決めて、お互いが相談して自由に使う(●×1)

- ・予約か、自由利用か？ ←予約制にはしたくない。
- ・ある程度(おだやかな)ルールやカレンダーをあらかじめ作っておくので、それに併せて、使う人同士が相談(配慮)しながら使う。
- ・既存のルールに従うのではなく、使い方を工夫することも大切なこと。



グループ2

何度も来たくなる交流スペースを考えよう！

【これまでの振り返り】

■この場のコンセプトは絞った方が良い

- ・小学校低学年前までの、遊びの基礎を学ぶところ。
- ・ここで学んだら、プレーパークに行くようなイメージ。
- ・大きい子はダイナミックに遊びたい。しかし、小さい子にはダイナミックな遊びはムリ。

■地域の公園より、人気のある場所にするには

- ・「また行きたい」「また会いたい」という気持ちは、打ち解けないと生まれない。
- ・共感性がないと、人の輪は広がらない。

■子どもが本当にやりたいことを考えよう

- ・これまでのアイデアは、大人が考えていること。
- ・子どもが本当にやりたいかを考えたい。

■遊びやコミュニケーションをリードする人が必要

- ・家の前の道で口ウ石を使って、絵を描いて遊んだりドリルや漢字の勉強をしたりしてた。今の子どもはそのような環境がなくてかわいそう。
- ・場はあっても、活用しきれない。大人でリードする人が必要
- ・例えば、昔遊びを教えてくれたり、お母さんに声かけたりして、一緒に遊びを促してくれる。
- ・昔遊びの伝承を大切にしたい。

■保護者も一緒に育つ

- ・保護者が子どもを預けっぱなしはダメ。一緒に育つ気持ちが大切。
- ・「お母さんも一緒に」と声かけする人が必要。児童館でやっている。

■環境はつくりすぎてもダメ

- ・何もないところで、感じる、生み出すことも大事。

■孤独に子育てしている人も来れるように

- ・外に出ると何か言われると思って、外出しない親子もいる。
- ・泥んこ遊びも就園前にしたことがなく、幼稚園で初めて体験したという親子もいる。

■区が協力的なのは嬉しい

- ・教育総合センターの使われ方を、周囲の人は理解してくれるか？ 大丈夫か？

【交流スペース：空間づくり】

■外と内をつなげる

- ・交流ゾーンと広場との連続性を持たせる。
- ・土足OKにした方が入りやすい。その場合、泥はどこで落とすか？
- ・交流ゾーンの広場に向けた「ガラスパーテーション」は、ラクガキ可にする。(●×2)

■雨天時も身体が動かせる設備

- ・ハンモックやブイなどがつけられる、天井から吊り下げられる金具の設置。

■乳幼児スペース、絵本が読めるスペース

- ・ボールプールの乳幼児スペースと、絵本が読めるスペースが欲しい。

■デザインの工夫

- ・エントランスや交流ゾーンは、カベがないので、遊びの動線を考えて、床タイルの色を変えるなどの、視覚的な区切りが必要。

■欲しい備品：ウォーターサーバー、要検討：wifi

- ・ コーヒーよりも、お湯が出るウォーターサーバーがあると良い。ミルクも作れる。
- ・ wifiがあるなら、絶対にスマホを使いたくなる。そこをどうするか。

【交流スペース：使い方】

■どうやって交流するか

- ・ 交流ゾーンをイベント的に利用し、異年齢交流ができるようにする。
- ・ 中高生ボランティアが乳幼児のお世話や遊びを一緒にする。

■交流ゾーンのコンセプト

- ・ 出会いの場、居場所
- ・ 場への安心感がないと、カベに張り付き中央に出てきて交流しない。(●×1)

■交流ゾーンは遊び発展スペース

- ・ 一緒になにかやるには、広さが必要。(●×1)
- ・ 家でできないこと、楽しいことを思いっきりできる場所。(●×3)
- ・ 遊び発展スペース。何も無いスペース。床に何か描いたり、鬼ごっこ、ケンケンパができる。
- ・ ごっこ遊びスペース（アトリエでつくったものを、食べ物などに見立てたりして、親子同士でやりとりできる場）。

■アトリエと交流ゾーンを連携して活用

Step1 アトリエ

- ・ 個人で、あるいは親子でつくる。
- ・ 廃材BOXがあり、広場で拾ったものを入れておいたり、モノづくりの時に使ったりする。

↓

Step2 交流ゾーン

- ・ 作ったモノで遊べる。
- ・ 共同でつくり、遊ぶ。

■高齢者の居場所、活躍の場 (●×1)

- ・ 子どもを見守りながら、居られるスペース。(●×1)
- ・ 昔遊びを見ると、子どもは「スゴイ！」と感動する。昔遊びを教えてくれる。(●×3)
- ・ 子どもの家事能力を育むようなことを、地域ボランティアさんが教えてくれる。例えば、料理（親が忙しいので、自分でつくれるようになる）、洗濯、裁縫など。

■人が必要

- ・ 就学前の子どもたちであれば、プレーリーダーがいて欲しい。
- ・ 保護者をつなぐ人も必要。
- ・ 希望丘青少年センターには、プロのコーディネーターがいる。



グループ3

何度も来たくなる交流スペースを考えよう！

【これまでの振り返り】

■空間のつくり方

- ・外と中が連動するとよい。
- ・地域のいろいろなものが取り入れられるとよい（例えば、昔ながらのもの／畳・廃材）。
- ・勤務先の保育園では、築山、樹木、緑は試行錯誤の連続。枯れるし、育たない。
- ・雑草の移植をしてみている。「用意されたものが環境ではない」を大人も子どももわかるには時間が必要と実感。
- ・あったらいいなのアイデアは浮かぶが、作り込みすぎないことが大事と思う。

■だれが利用するか

- ・学童／ＢＯＰ卒業後の場がない。公園は苦情が来る、学校も使えない。
- ・未就学児の場にもなるとよい。
- ・大人も体験できるとよい。
- ・教員の研修の場として認識していた。

■どんなことができるといいか

- ・子どものことをよく知れる場にしたい。
- ・安心してやりたいことができることが大事。
- ・発達障害なのかどうかで悩む親御さんが増えている。乗り越えていくための術がない。情報が多すぎて選べない。

【交流スペース：空間づくり】

■外と内をつなげた使い方

- ・幼児、親子が世田谷の草花を利用して染め物・リースを作れる。(●×1)
- ・外でやってきたことを科学する。
- ・外で取ったもの／育てたものを使って食べる。
- ・自然物で遊ぼう空間として、すり鉢・鍋・簡単道具を常備。(●×1)

■交流ゾーンはあくまで外という空間を作る (●×2)

- ・地面（床）の材質を工夫する。
- ・自然物をたくさん置く。
- ・科学実験室の様々な用具を使えるようにしたら、幼児・小学生の「知りたい」の気持ちを活かせると思う。→キッチンと科学実験室には期待

■遊具

- ・世代の異なる子どもたちが室内で遊べる。時間帯別で利用する世代の変化に対応。
- ・幼児、乳児、親子が体を動かせる。遊具を組み合わせたり、変えたりして、いろいろな動きを引き出すことができる。
- ・登る、飛ぶ、バランスなど体を慎重に使うってチャレンジして遊ぶ空間（ボルダリング・平均台・積み木など）。
- ・子ども同士と一緒に組み立てて作り遊ぶもの（大型のもの）。

■すみっこほっこりスペース（ツリーハウス）(●×3)

- ・広すぎて落ち着かない。
- ・トンネルにも読書スペースにもなる。

【交流スペース：使い方】

■子どもを理解する場

- ・赤ちゃんの不思議発見ラボ。地域の親子や保育園の協力を得て、親になる前に「赤ちゃんのことを知る」「赤ちゃんとの関わり方を学ぶ」「赤ちゃんと実際に触れ合う」仕組み。
- ・働いている保護者も有給を使って参加できるこども理解の研修（企業からもOK）

■触れあう場

- ・乳幼児の親子と学齢期のこどもが触れ合える場

■教員研修施設の特徴を生かす場

- ・学校以外の学びの場。自由研究をやる場所。（●×2）
- ・他の施設で行った企画の発表の場所（トラまち）。
- ・こどもが先生になる／こだわりを持った人が先生になる（プラ板・虫・バネ・紙飛行機・竹トンボなど地域の得意を持った人による）。

■人が必要

- ・安全に過ごせるために見守る人員。
- ・ワークショップやコーナーの担い手とのつながり。地域の方の力をお借りできたら素敵。

【その他のアイデア】

■スペース1

- ・スペース1を使って、様々な対象を想定したワークショップやコーナーの確保（期間限定、定期的など）。（●×1）
- ・療育に行っている子ども、親子が交流するプログラムの実施（医療的ケア児もこれる配慮）。（●×3）
- ・幼児、親子で様々な発想で工作を楽しめる。

■スペース2

- ・キッチンがあるとよい。梅干し、味噌など発酵や熟成する生活に因んだものを作る。

■発想するための倉庫

- ・こどもが自由に工作を楽しむために廃材を集めてストックする場所を作る。テーブルのスペースを広く必要。



グループ4

何度も来たくなる交流スペースを考えよう！

【これまでの振り返り】

■路上で子どもたちが遊べない時代になっている

- ・大人が決めた遊びではなく、子どもたちが自分で考えて自由に遊べる「遊び」が大切。

■こんな場所になったらいいな

- ・トランポリンをつくって子どもたちがわざわざ来たく目玉づくりに
- ・ピクニックができるような場所だと良さそう
- ・じゃぶじゃぶ池などの水場と足が洗えるスペースができる

■せたがや保育園や園庭のない保育園の園児の良い遊び場になりそう

- ・せたがや保育園のホールの広さが、交流スペースの広さと近いイメージ
- ・園庭のない子どもたちのためにも使えると良さそう
- ・園庭代わりに運動会などができないか

■子どもと一緒に使い方を考えたい

- ・ワークショップも子どもと一緒にできると良さそう

■利用する子どもの年齢層のイメージを固めたい

- ・時間や場所で分ける？
- ・児童館と子育てひろばが融合したイメージに近いのか？

【交流スペース：アイデア】

■家庭で育つ子ども、小規模保育園の子どもたちが体を動かせる場所（●×2）

- ・ボルダリングや縄のぼりなど、保育園などにある遊具を保育園や幼稚園に行っていない子どもが雨の日に遊べるスペース
- ・0～2歳の保育園児でない家庭で育つ子どもたちの遊び
- ・1～3歳ぐらいの子どもの雨の日の遊び

空間アイデア：乳児ゾーンとは別でボルダリング、トランポリン、マット、ロープ、ままごと、ネットなど

■雨の日の保育や雨の日に遊べるスペース（●×3）

- ・雨の日に体を使って遊べる
- ・雨の日の保育

空間アイデア：雨の日でも走り回れるスペース

乗る、登る、ジャンプできる、段差がある、デコボコがある。

■裸足でごろごろゆっくりできる床のあるスペース（●×3）

- ・子どもも保護者も靴を脱いで足を伸ばしてリラックスできるスペース

空間アイデア：フローリングに代わる柔らかい床。

棚で仕切ったりして、みんなが靴を脱いで床でくつろげる空間。

畳、座卓フロアで乳幼児がごろんとできて、ママもおしゃべりできる。

いつでも飲食できるスペース。

現代の家庭に少ない畳、座卓のエリア。

■ エントランスとイスやテーブルのある交流スペースの区別をしっかりとる

- ・ 机とイスは必要か？

空間アイデア：机とイスを設置する場合は子どもサイズにする。

大人サイズと子どもサイズのテーブルとイスを設置。

大人テーブルの近くには資料や子育て雑誌などの情報コーナー

子どもテーブルの近くには絵本コーナーを融合できると良い。

■ 外遊びと室内遊びの関係性がつくれると良い (● × 2)

- ・ 外遊びの後に、室内に遊びに来てごろごろできるスペース

- ・ 外で拾ったものを活用した遊びやアトリエ

- ・ 泥遊びやオムツなど、室内でも汚しても大丈夫な場所 (● × 2)

空間アイデア：スペース①で、広場で拾った自然のものや絵の具を使って制作ができるアトリエができると良い

■ 芝生を可動式にして、外と内で一体的に利用できると良い (● × 1)

- ・ 芝生を動かしたい

空間アイデア：芝生を動かしたい (札幌ドームのような可動式の芝生)

■ ガラスパーテーションの運用方法が心配

- ・ ガラスパーテーションをオープンにすると、冷房や暖房はどうなる？

- ・ 冬場などはほとんど開放されないのではないか

空間アイデア：逆字など、ガラスにかける落書きキッドがあると良い

■ 災害時の対応や、様々な遊びのためにもキッチンや水場は必要

空間アイデア：何かあった時のために、シンク、水道、IH 付きのキッチンが必要。

■ 未来的で科学的な遊びもできると良い (● × 2)

- ・ STEAM Studio とも連携して科学的な遊びができると良い。

空間アイデア：プロジェクターを使った光の遊びで床に写したり、壁に写したり。



(3) 全グループのまとめ（主な意見）

何度も来たくなる交流スペースを考えよう！

1 これまでの振り返り

■コンセプト（対象年齢）

- ・小学校低学年前まで、遊びの基礎を学ぶ。ここで学んだらプレーパークに行くイメージ。
- ・何か言われると思い、外出しない親子もいる。幼稚園で初めて泥んこ遊びをした親子もいる。
- ・せたがや保育園や園庭のない保育園の園児の良い遊び場になりそう。運動会ができないか。
- ・未就学児の場にもなるとよい。
- ・学童／ＢＯＰ卒業後の場がない。公園は苦情が来る、学校も使えない。
- ・利用する子どもの年齢層のイメージを固めたい。時間や場所で分ける？
- ・児童館と子育てひろばが融合したイメージが近いのか？
- ・大きい子はダイナミックに遊びたい。しかし、小さい子にはダイナミックな遊びはムリ。
- ・「異年齢」とか？ 乳幼児なのか、小中高校生まで含むのか。
- ・大人も体験できるとよい。
- ・教員の研修の場として認識していた。

■どんなことができるといいか

- ・子どものことをよく知れる場にしたい。
- ・安心してやりたいことができることが大事。
- ・発達障害なのかどうかで悩む親御さんが増えている。乗り越えていくための術がない。

■「子ども」のためだけの施設ではなく、未来のみんなのための施設

- ・「子ども」という枠で考えることがそもそも間違い、(人格を持った) 小さな進行形の人たち、未来の大人たちである。
- ・「子どものため」という視点ではなく、未来のために考える必要がある。今の案はあまりにも「子どものため」という視点が強く、悲しい。

■保護者も一緒に育つ

- ・保護者が子どもを預けっぱなしはダメ。一緒に育つ気持ちが大切。
- ・「お母さんも一緒に」と声かけする人が必要。児童館でやっている。

■地域の公園より、人気の場所にするには

- ・「また行きたい」「また会いたい」という気持ちは、打ち解けないと生まれない。共感性がないと、人の輪は広がらない。
- ・トランポリン、じゃぶじゃぶ池など、子どもたちがわざわざ来たく目玉づくりに。
- ・ピクニックができるような場所だと良さそう。

■地域の中の施設として実現性を

- ・不便な場所なのに人が来るのか。車や自転車の対応は？
- ・住宅街の中でできないことがあるのでは（泥遊び、火、音など）。前提条件は明確なのか。
- ・地域のいろいろなものが取り入れられるとよい（例えば、昔ながらのもの／畳・廃材）。
- ・「広がりのある遊び」というコンセプトは時代に合っている。

- ・昔はどこでも遊べた。今はこういうスペースが必要だと思った。
- ・区が協力的だが、教育総合センターの使い方を周囲の人は理解してくれるか？

■「遊び」は用意されたものではない

- ・「遊び」は用意されたものではなく、そこで自然に生まれる（営まれる）すべてのこと。
- ・施設をつくることに一所懸命に見える。根本から考えて欲しい。
- ・あったらいいなのアイデアは浮かぶが、作り込みすぎないことが大事。
- ・何もないところで、感じる、生み出すことも大事。
- ・大人が決めた遊びではなく、子どもたちが自分で考えて自由に遊べる「遊び」が大切。
- ・これまでのアイデアは、大人が考えていること。子どもが本当にやりたいかを考えたい。
- ・ワークショップも子どもと一緒にできると良さそう。

■遊びやコミュニケーションをリードする人が必要

- ・家の前でロウ石を使って、絵を描いて遊んだりドリルや漢字の勉強をしたりしてた。今の子どもはそのような環境がなくてかわいそう。
- ・場はあっても、活用しきれない。大人でリードする人が必要。例えば、昔遊びを教えてくれたり、お母さんに声かけたりして、一緒に遊びを促す。昔遊びの伝承を大切にしたい。

■空間のつくり方

- ・外と中が連動するとよい。
- ・勤務先の保育園では、築山、樹木、緑は試行錯誤の連続。枯れるし、育たない。
- ・雑草の移植をしてみている。「用意されたものが環境ではない」を大人も子どももわかるには時間が必要と実感。

2 交流スペース：コンセプト

■大人も子どもも自分の責任で遊べるようになること（●×6）

- ・施設もルールも素材も用意はある。それをどう使うかは、それぞれの人が考える。
- ・大人も子どもも自分の責任で遊べるようになること。このコンセプトをどう実現するか。

■人が必要（●×4）

- ・利用者や子どもたちにどう活用していきたいか、常にヒアリングできる人が内外にいる。
- ・「遊ぶ」ことの意味を伝えること。住民や大人に伝え続けること。
- ・ここで行われたことを記録し、「財産」に変えていくしくみ。そのための人が必要。

■年齢で分けない、〇〇用と決めつけない

- ・年齢で分けない。子ども、親、大人とかにしない。一人の人間として自分と向き合える。
- ・「ハイハイする場所はここ」と決めない。外でハイハイしたって良い。
- ・「ここは〇〇用」と決めつけない。場所と道具は用意するが、それをどう使うかは子ども（使う人）が決める。たとえば、「科学実験室」などと決めない。

3 交流スペース：空間づくり

広場と交流ゾーンをつなげる

■外と内をつなげる

- ・広場から交流ゾーン、スペース①②について、外（芝生）から内（デッキ）（室内）に向けて、連続性があり、動から静へつながりのある作り方。(●×2)
- ・交流ゾーンと広場は連続性を持たせる。土足 OK が入りやすい。泥はどこで落とす？
- ・スペース間の親和、広場からの親和。
- ・シャワー（湯）、木のデッキ、絵本、おもちゃ、キッチン、素材、描画など。
- ・幼児、親子が世田谷の草花を利用して染め物・リースを作れる。(●×1)
- ・外でやってきたことを科学する。外で取ったもの／育てたものを使って食べる。
- ・自然物で遊ぼう空間として、すり鉢・鍋・簡単道具を常備。(●×1)

■外遊びと室内遊びの関係性がつくると良い(●×2)

- ・外遊びの後に、室内に遊びに来てごろごろできるスペース
 - ・外で拾ったものを活用した遊びやアトリエ
 - ・泥遊びやオムツなど、室内でも汚しても大丈夫な場所(●×2)
- 空間アイデア：スペース①で、広場で拾ったものや絵の具を使って制作できるアトリエ

■交流ゾーンはあくまで外という空間を作る(●×2)

- ・地面（床）の材質を工夫する。
- ・自然物をたくさん置く。
- ・科学実験室の様々な用具を使えるようにしたら、幼児・小学生の「知りたい」の気持ちを活かせると思う。→キッチンと科学実験室には期待

■ガラスパーテーションの活用と心配

- ・オープンにすると、冷房や暖房はどうなる？冬場などはほとんど開放できないのでは？
 - ・交流ゾーンの広場に向けた「ガラスパーテーション」は、ラクガキ可にする。(●×2)
- 空間アイデア：逆字など、ガラスにかけられる落書きキッドがあると良い

■芝生を可動式にして、外と内で一体的に利用できると良い(●×1)

- 空間アイデア：芝生を動かしたい（札幌ドームのような可動式の芝生）

■エントランスとイスやテーブルのある交流スペースの区別をしっかりとる

- 空間アイデア：机とイスを設置する場合は子どもサイズにする。
- 大人サイズと子どもサイズのテーブルとイスを設置。
 - 大人テーブルの近くには資料や子育て雑誌などの情報コーナー
 - 子どもテーブルの近くには絵本コーナーを融合できると良い。

家具、遊具、キッチン

■すみっこほっこりスペース（ツリーハウス）(●×3)

- ・広すぎて落ち着かない。トンネルにも読書スペースにもなる。

■雨の日の保育や雨の日に遊べるスペース(●×3)

- ・雨の日に体を使って遊べる。雨の日の保育。
- 空間アイデア：雨の日でも走り回れるスペース
- 乗る、登る、ジャンプできる、段差がある、デコボコがある。
- ・雨天時も身体が動かせる設備。ハンモックやブイなどがつけられる、天井から吊り下げられる金具の設置。

■家庭で育つ子ども、小規模保育園の子どもたちが体を動かせる場所（●×2）

- ・保育園などにある遊具を保育園や幼稚園に行っていない子どもが、乳児ゾーン以外にボルダリングや縄のぼりなど、雨の日に遊べるスペース
- ・0～2歳の保育園児でない家庭で育つ子どもたちの遊び
- ・1～3歳ぐらいの子どもの雨の日の遊び

空間アイデア：ボルダリング、トランポリン、マット、ロープ、ままごと、ネットなど

■フレキシブルな家具

- ・フレキシブルなオリジナルインテリア。（●×2）
- ・パーテーション、テーブル、イス、階段、ソファなど。
- ・「家具」というよりも、大きな積み木のようなインテリア。用意はするけど使い方は自由。
- ・キッチンで調理し交流ゾーンで食事する。そのためのテーブル、イス。（しまうスペースは？）
- ・時間帯を決めて、子どものクッキーづくりや白玉など、自分の家では人を呼べないけれど、ここならできる、というような使い方。

■遊具

- ・世代の異なる子どもたちが室内で遊べる。時間帯別で利用する世代の変化に対応。
- ・幼児、乳児、親子が体を動かせる。遊具を組み合わせたり、変えたりして、いろいろな動きを引き出すことができる。
- ・登る、飛ぶ、バランスなど体を慎重に使ってチャレンジして遊ぶ空間（ボルダリング・平均台・積み木など）。
- ・子ども同士と一緒に組み立てて作り遊ぶもの（大型のもの）。

■災害時の対応や、様々な遊びのためにもキッチンや水場は必要

空間アイデア：何かあった時のために、シンク、水道、IH付きのキッチンが必要。

その他

- ・ボールプールの乳幼児スペースと、絵本が読めるスペースが欲しい。
- ・デザインの工夫が必要。エントランスや交流ゾーンは、カベがないので、遊びの動線を考えて、床タイルの色を変えるなどの、視覚的な区切りが必要。
- ・コーヒーよりも、お湯が出るウォーターサーバーがあると良い。ミルクも作れる。
- ・wifiがあるなら、絶対にスマホを使いたくなる。そこをどうするか。

4 交流スペース：使い方

コンセプト

■交流ゾーンのコンセプト

- ・出会いの場、居場所
- ・乳幼児の親子と学齢期の子どもが触れ合える場
- ・場への安心感がないと、カベに張り付き中央に出てきて交流しない。（●×1）
- ・交流ゾーンをイベント的に利用し、異年齢交流ができるようにする。中高生ボランティアが乳幼児のお世話や遊びを一緒にする。
- ・赤ちゃんの不思議発見ラボ。地域の親子や保育園の協力を得て、親になる前に「赤ちゃんのことを知る」「赤ちゃんとの関わり方を学ぶ」「赤ちゃんと実際に触れ合う」仕組み。
- ・働いている保護者も有給を使って参加できることも理解の研修（企業からもOK）

■教員研修施設の特徴を生かす場

- ・学校以外の学びの場。自由研究をやる場所。(●×2)
- ・他の施設で行った企画の発表の場所(トラまち)。
- ・子どもが先生になる/こだわりを持った人が先生になる(プラ板・虫・バネ・紙飛行機・竹トンボなど地域の得意を持った人による)。

■交流ゾーンは遊び発展スペース

- ・一緒になにかやるには、広さが必要。(●×1)
- ・家でできないこと、楽しいことを思いっきりできる場所。(●×3)
- ・遊び発展スペース。何もないスペース。例えば、床に何か描いたり、鬼ごっこ、ケンケンパができる。
- ・ごっこ遊びスペース(アトリエでつくったものを、食べ物などに見立てたりして、親子同士でやりとりできる場)。

■アトリエと交流ゾーンを連携して活用

Step1 アトリエ

- ・個人で、あるいは親子でつくる。
- ・廃材BOXがあり、広場で拾ったものを入れておいたり、モノづくりの時に使ったりする。

↓

Step2 交流ゾーン

- ・作ったモノで遊べる。
- ・共同でつくり、遊ぶ。

過ごし方

■裸足でごろごろゆっくりできる床のあるスペース(●×3)

- ・子どもも保護者も靴を脱いで足を伸ばしてリラックスできるスペース

空間アイデア：フローリングに代わる柔らかい床。

棚で仕切ったりして、みんなが靴を脱いで床でくつろげる空間。

畳、座卓フロアで乳幼児がごろんとできて、ママもおしゃべりできる。

いつでも飲食できるスペース。

現代の家庭に少ない畳、座卓のエリア。

■高齢者の居場所、活躍の場(●×1)

- ・子どもを見守りながら、居られるスペース。(●×1)
- ・昔遊びを見ると、子どもは「スゴイ!」と感動する。昔遊びを教えてくれる。(●シール×3)
- ・子どもの家事能力を育むようなことを、地域ボランティアさんが教えてくれる。例えば、料理(親が忙しいので、自分でつくれるようになる)、洗濯、裁縫など。

プログラム、備品

■プログラムやメニューの提案(●×1)

- ・親子ヨガ教室(親子でふれあう場)
- ・子どもとのふれあい方がわからない親もいる。そのためにもインストラクターがいるといい。
- ・身体を動かす教室(ダンスなど)+親子体操。火曜だけはイベントの日、などと決めてもよい。

■素材を用意

- ・空き箱やトイレットペーパーの芯などを使って、子どもたちが自由制作できるスペース。
(●×1)
- ・大人だって使って良い。自分で考えて使う。
- ・モノとの対話、マテリアル（素材）、世田谷産のさまざまな素材。(●×1)
- ・ほかにも畳、ワラ、ネジ、暮らしのものがある。それをどう使うかは自由。

■自由に弾けるピアノ（エントランスに）

- ・演奏会ができるように、防音と常設のピアノや楽器（普段は誰でも弾ける）。

運営

■予約制にしない、ルールだけ決めて、お互いが相談して自由に使う（●×1）

- ・予約か、自由利用か？ ←予約制にはしたくない。
- ・ある程度（おだやかな）ルールやカレンダーをあらかじめ作っておくので、それに併せて、使う人同士が相談（配慮）しながら使う。
- ・既存のルールに従うのではなく、使い方を工夫することも大切なこと。

■人が必要

- ・就学前の子どもたちであれば、プレーリーダーがいて欲しい。
- ・保護者をつなぐ人も必要。
- ・希望丘青少年センターには、プロのコーディネーターがいる。
- ・安全に過ごせるために見守る人員。
- ・ワークショップやコーナーの担い手とのつながり。地域の方の力をお借りできたら素敵。

【その他のアイデア】

■スペース1

- ・スペース1を使って、様々な対象を想定したワークショップやコーナーの確保（期間限定、定期的など）。(●×1)
- ・療育に行っている子ども、親子が交流するプログラムの実施（医療的ケア児もこれる配慮）。
(●×3)
- ・幼児、親子で様々な発想で工作を楽しめる。

■スペース2

- ・キッチンがあるとよい。梅干し、味噌など発酵や熟成する生活に因んだものを作る。

■発想するための倉庫

- ・こどもが自由に工作を楽しむために廃材を集めてストックする場所を作る。テーブルのスペースを広く必要。

■未来的で科学的な遊びもできると良い（●×2）

- ・STEAM Studio とも連携して科学的な遊びができると良い。
- 空間アイデア：プロジェクターを使った光の遊びで床に写したり、壁に写したり。

**第3回 遊びから学ぼうワークショップ
開催報告書**

令和元年11月

編集：場所づくり研究所（有）プレイス

〒156-0044 世田谷区赤堤3-3-18 1F

電話：03-3324-0365

FAX：03-3324-0376